

令和3年8月豪雨災害

ボランティアや地域の力で

8月11日から降り続いた雨で、久留米市でも家屋への浸水被害が発生しました。このたび大雨で被災された皆さまにおかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

市社会福祉協議会は、久留米市との協定に基づき、8月17日に災害ボランティアセンターを設置し、被災者が日常生活に戻るよう、生活環境の回復に向けて活動しました。

※149件の依頼に377名のボランティアで対応（令和3年9月14日現在）

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、マスク着用・手指の消毒・体温測定はもちろんのこと、ボランティアを事前登録制にし、集合時間を分散するなど、感染拡大防止に配慮しての活動となりました（写真①）。また、熱中症対策として、市内



受付で検温している様子(写真①)

の活動場所を巡回し、冷やした飲料水やタオルを渡したり、帰着時のためにミストを設置したりと工夫をしました。

被災者からの依頼内容は、家具の搬出や運搬が多く、その他、室内の清掃や畳の片付け等がありました（写真②）。

被害が大きかった地域には、相談先を記載したチラシ

をご自宅へ直接配布しました。一方で、片付けに追われチラシを見ず、相談できない人や、ボランティアの皆さんがどんなことをしてくれるのかかわからない人がいることもわかりました。ボランティアの支援を実際に受けた人が口コミで伝えていただいたことで、災害ボランティアセンターにつながったケース、また、チラシを配布する中で、話を聞いて初めて片付けに困っていることがわかったケースもありました。

地域の皆さんの情報発信の協力があつたからこそ、困りごとを抱え込んだままになっていた人へとつながり、対応することができました。また、今回の企業・団体・個人の皆さんから数々の物品の寄付をいただきました（写真③）。物的支援のみならず、企業や団体から、運営支援のスタッフを派遣していただき（写真④）、災害ボランティアセンターを円滑に運営することができました。



水に浸かった家具や家電等を搬出する様子(写真②)

災害ボランティアセンターの活動の様子は、市社会福祉協議会フェイスブックでご覧いただけます。



企業・団体の皆さんに運営に携わっていただきました(写真④)



いただいた飲料水はボランティアの皆さんに大変喜ばれました(写真③)